

2005年度構造委員会活動報告

委員長：和田 章

幹事：緑川光正、福和伸夫、倉本 洋

構造委員会は、建築構造に関する調査・研究、規準・指針等の作成ならびに改定、講習会・シンポジウム等成果の普及、委託研究の受託、建議などを行うことを目的に設置された。

小委員会(本委員会直属)

- 1) 構造工学論文集編集小委員会(主査:渡邊史夫)
- 2) 煙突構造小委員会(主査:山田大彦)
- 3) 容器構造小委員会(主査:内藤幸雄)
- 4) 原子力建築小委員会(主査:瀧口克己)

運営委員会 (+ 67小委員会 + 62WG)

1. 応用力学運営委員会 (主査: 竹脇 出)
2. 荷重運営委員会 (主査: 神田 順)
3. 基礎構造運営委員会 (主査: 時松孝次)
4. 木質構造運営委員会 (主査: 鈴木秀三)
5. 鋼構造運営委員会 (主査: 中島正愛)
6. 鉄筋コンクリート構造運営委員会 (主査: 林 静雄)

運営委員会(続き)

7. プレストレストコンクリート構造運営委員会
(主査: 中塚 侑)
8. 鋼コンクリート合成構造運営委員会
(主査: 崎野健治)
9. シェル・空間構造運営委員会(主査: 大森博司)
10. 振動運営委員会(主査: 三浦賢治)
11. 仮設構造運営委員会(主査: 宮崎祐助)
12. 壁式構造運営委員会(主査: 山崎 裕)

2005年度発行書籍売上部数ベスト10

- 1 . 鋼構造設計規準 - 許容応力度設計法 -
- 2 . 鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説 - 許容応力度設計法 -
- 3 . 鉄骨鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説
- 4 . 建築基礎構造設計指針
- 5 . 鋼構造接合部設計指針
- 6 . 建築物荷重指針・同解説 (2004)
- 7 . 壁式構造関係設計規準集・同解説 (壁式鉄筋コンクリート造編)
- 8 . 建物と地盤の動的相互作用を考慮した応答解析と耐震設計
- 9 . 小規模建築物基礎設計の手引き
- 10 . 高力ボルト接合設計施工ガイドブック

2005年度成果一覽

【出版物】.....	出版点数	10	
【講習会】.....	講習会数	7	会場数 18
	参加者総数	2,187名	
【催し物】.....	催し物数	14(15会場)	
	参加者総数	1,410名	
【大会研究集会】	研究協議会	1、PD	7

まとめ

建築構造学は、物理学、数学に支えられた学問

平地の少ない国土に1億以上の人々が住み、地震、台風、大雪に襲われる厳しい自然条件の中で、人々の安全な生活を支え、社会の経済活動の大きな割合をしめる技術でもある。

構造委員会は純粋な力学分野から実務的な設計指針の出版まで広い領域を扱い、それぞれ自由に大きな成果をあげていると考える

問題点と今後の活動

規準、指針の編集方針に一貫性がないこと

新築建物が中心で既存建築への対応がされてこなかったこと

研究を先へ進めることに重心が置かれ、市民や行政へ向けた心使いがなかったこと

安全な建物を社会に送り出すための基本に戻り、我々の英知を集めた活動を続けたい。

学会提言(耐震設計問題)3月20日

(1) 継続能力開発事業の拡充

1) 技術者倫理教材の刊行と倫理研修の実施

2) 構造技術者向け継続的能力開発研修の実施 **—協力**

1 一級建築士レベルを対象とした解説書の刊行と研修の実施

2 学会規準・仕様書等に関わる入門的な研修の実施

(2) 市民を対象とした社会貢献活動の実施

1) 建築の安全性や性能に関する専門知識の分かりやすい解説書の刊行ならびにホームページからの発信 **—協力**

2) (仮称)住まいづくり支援建築会議の創設

学会提言(耐震設計問題)3月20日

(3)新たな調査研究の実施

- 1)建築分野の保険制度等の現状に関する調査研究
- 2)建築生産の上流から下流までの、補完の連鎖が途絶えない仕組みの構築に関する調査研究

基準と建築主・設計者の役割

1950年の建築基準法の k は0.2以上、
1981年の新耐震設計法の C_0 は0.2以上、1.0以上、
限界耐力計算法の安全限界変位は計算で求めた
値以下の数値とするように、
建築基準法は最低基準であり、
設計を決めるのは構造設計者であることが
徹底されている。
設計法が多様化し、
最低基準が不揃いになっていることが
問題となっているが、
設計は建築主と設計者の協議で進めるべきである。